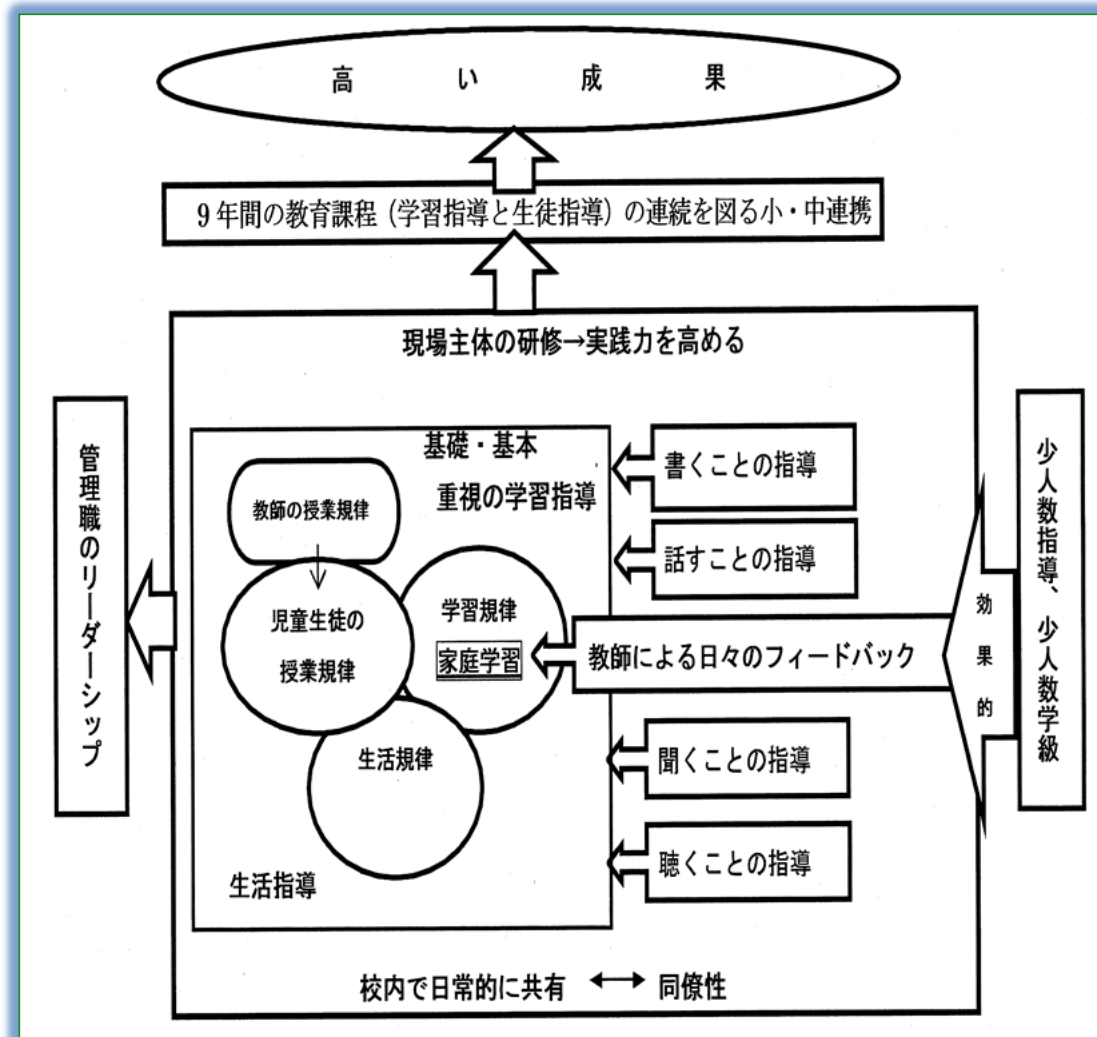


4 高い成果を上げている学校 訪問調査からみた特徴



- 家庭学習の指導
- 管理職のリーダーシップと同僚性の構築
- 実践的な教員研修の重視
- 小中連携教育の推進、異学年交流の重視
- 言語に関する授業規律や学習規律の徹底
- 都道府県、市レベルの学力・学習調査の積極的な活用
- 基礎・基本の定着の重視と少人数指導、少人数学級の効果

→第7章、第10章

参考1 調査の概要

- 保護者に対する調査の概要
 - － 調査対象：抽出した公立学校において、本体調査を実施した児童生徒の保護者

	保護者		(参考)学校	
	対象数	有効回答数(率)*	対象数	有効回答数(率)**
小学校	16,908	14,383 (85.1%)	429	391 (91.1%)
中学校	30,054	25,598 (85.2%)	410	387 (94.4%)

- * 児童生徒の結果と結合できる保護者の回答数
- ** 1人以上の保護者が有効回答だった学校数
- 調査時期：平成25年5月下旬～6月下旬
- 調査内容：子供への接し方、子供の教育に対する考え方、教育費等
- ウェイトづけ
 - － 全国レベルでの推定を可能としている **第8章**

参考2 保護者の意識や関与と 児童生徒の学力

- 保護者の関与や意識は、児童生徒の学力と相関が大きい。以下のような保護者の子どもで、学力が高い傾向
→第2章(1)
 - 「子どもが決まった時刻に起きるよう(起こすよう)にしている」「子どもを決まった時刻に寝かせるようにしている」「毎日子どもに朝食を食べさせている」
 - 「自分でできることは自分でさせている」「子どものプライバシーを尊重している」「子どものよいところをほめるなどして自信を持たせるようにしている」
 - 本や新聞を読むことに関する働きかけは、子どもの学力と非常に強い関係が見られる
 - 子どもに高い学歴を期待する保護者の子どもほど学力が高い

参考3 保護者の意識や関与と児童生徒の学力(続き)

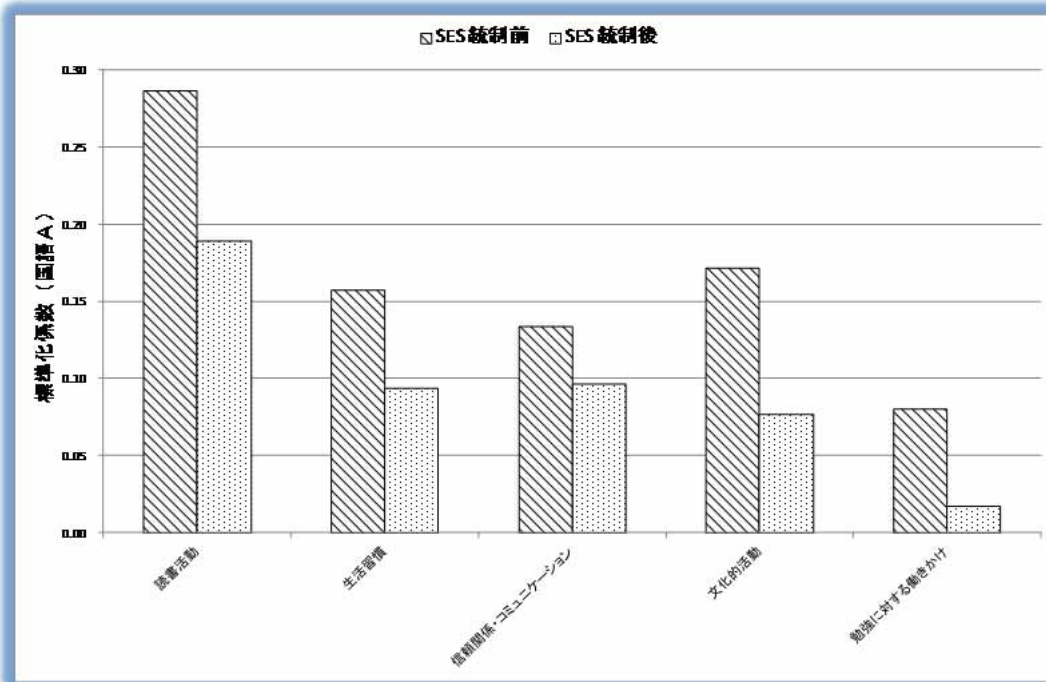


図 保護者の関与と学力(国語A)の関連(小6)

数値は、重回帰分析による β 。数値が大きいほど学力と関連。SES統制後に数値が小さくなる項目はSES統制前の数値が見かけ上の関連を示していたことを表す

- 家庭における読書活動、生活習慣に関する働きかけ、親子間のコミュニケーション、親子で行う文化的活動は、いずれも学力にプラスの影響力。とくに家庭における読書活動が子どもの学力に最も強い影響力を及ぼす。その影響力は中学校に比べ小学校で大きい →第2章 図表2-2-7 図表2-2-11
- 上記の保護者の行動・関わり方はいずれもSESを統制すると学力への影響力が小さくなる。ただし読書活動の影響力はなお残る